

来週の「売り物記事」はこれ



2018年5月25日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

寺よさらば

和尚のフリーランス宣言

27日(日)



ストーリー

世襲と画一化した葬儀を続ける仏教界に異を唱え、寺の経理や葬儀費用を全公開、故人や遺族の意志をくんだ「オーダーメイドの葬儀」を営んできた長野県の高橋卓志和尚(69)＝写真＝が、血縁のない後継者に一切合切を譲り渡し、「フリーランス宣言」をして寺を去りました。宗派や寺の枠を超えた、新たな仏道を探求する行脚に挑む「改革僧」。その思いと、出立に至る軌跡を追いました。筆者は東京社会部専門編集委員の萩尾信也記者です。



相次ぐ「不法滞在者」の自殺

夕刊特集ワイド 28日(月)



「不法滞在者」として退去強制処分が出された外国人を收容する法務省入国管理局の施設で、收容者の自殺・自殺未遂事件が相次いでいます。收容者数は全国で1440人(17日現在)で、この5年で約500人も増加しました。医療などの処遇面でも收容者の人権が侵害されているとの指摘が高まっています。現場でいったい何が起きているのでしょうか。

はたらく トランスジェンダーに理解を

くらしナビ面 28日(月)

心と体の性別が異なる「トランスジェンダー」。そんな人たちが「働きづらさ」を感じていることが、次第に知られるようになってきました。職場環境を整備する企業が少しずつ増え、その中からは「すぐにできることはたくさんある。顧客や社内からの反響も良い」という積極的な声も聞かれます。当事者の思いや、企業に求められている取り組みを取材しました。



それホント? 3世代同居率日本一・山形県

サラダぼうる面 28日(月)



日本では核家族化や単身世帯がすっかりおなじみになりましたが、その一方で、3世代同居(4世代を含む)の割合が日本一高いのが、実は山形県です。2015年の国勢調査によると、同居率は17.8%と、全国平均(5.7%)の3倍以上です。いったい、なぜなのでしょう。事情を探るため、記者が現地に飛びました。その納得の理由とは――。

美 フットケアで健康的な足に

くらしナビ面 29日(火)

夏本番に向け、素足を見せる機会が増えてきます。足のトラブルは、皮膚、骨、爪――の異常の三つ。高温多湿の時は、足の臭いや水虫が気になります。また、足の状態が良くないと、腰痛や頭痛の原因にもなります。健康的で美しい足を保つためには、どうしたらいいのでしょうか。足の健康を維持するための運動や、自宅で簡単にできるケアの方法を紹介します。



論点「セクハラと日本社会」

なぜ、被害がなくなるのか

オピニオン面 6月1日(金)



前財務事務次官らのセクハラ発言問題によって、依然として、セクハラ被害のなくなる日本社会の実相が浮き彫りになりました。セクハラを告発した女性被害者がインターネット上などで中傷される「二次被害」も出ています。欧米諸国でセクハラに対する抗議運動が広がる中、日本で「セクハラなき世界」を実現するにはどうしたらよいのでしょうか。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

世界に挑む23人の顔ぶれは サッカーW杯に出場する日本代表発表

スポーツ面ほか 6月1日(金)

6月14日開幕のサッカー・ワールドカップ(W杯)ロシア大会に出場する、日本代表メンバー23人が5月31日に発表されます。W杯に2大会連続出場している本田圭佑(パチューカ)、昨年10月を最後に代表から外れていた故障明けの香川真司(ドルトムント)、左足首の故障を抱える岡崎慎司(レスター)の“ビッグ3”は代表入りできるのか。解任されたハリルホジッチ前監督に代わり、急きょ就任した西野朗監督の選択に注目です。



企画「+2℃の世界 適応の現場から」 環境面 5月30日(水)



地球温暖化に伴う被害を回避・軽減する「適応」。「+2℃の世界 適応の現場から」では、地域などで進む取り組みを記者が現場に出向いて取材し、月1回掲載します。1回目は、米どころとして知られる新潟県が、主力品種ながら暑さに弱いコシヒカリに代わって、高温に耐性がある品種「新之助」を開発。新たなブランド確立を目指す様子などを描きます。